

毒蛇ハブが島の宝

—世界自然遺産の島 奄美—

日時 令和7年

7月21日 祝日

14:00～16:00 (受付13:30)

参加費
無料

事前申し込み不要



講師

服部 正策

講演内容

奄美大島の動植物のどこが世界自然遺産に登録されるほどの価値があるのか。マングース駆除、野生化したノラネコ対策、そのほかの外来動植物対策など興味深いお話をさせていただきます。多数のご参加をお待ちしております。

プロフィール

昭和28年 島根県邑智(おおち)郡瑞穂(現邑南町)で生まれる

東京大学農学部畜産獣医学科卒業

1980年より東京大学医科学研究所奄美病害動物研究施設に勤務

ハブの調査研究、野生動物の調査研究、実験用霊長類(リスザル、ヨザル)の繁殖と感染実験などを行ってきた

2020年に退職し、島根県で農業と有害鳥獣対策を行っている

趣味は動植物の観察

元「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産」科学委員会委員、獣医師、農学博士

著書など

「マングースとハルジオンー移入生物とのたたかい」(伊藤一幸との共著) 岩波書店 2000

「奄美でハブを40年研究してきました。」新潮社 2024

お問い合わせ

主催：公益社団法人 滋賀県獣医師会 TEL：077-526-1966